

(7) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みが見られる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

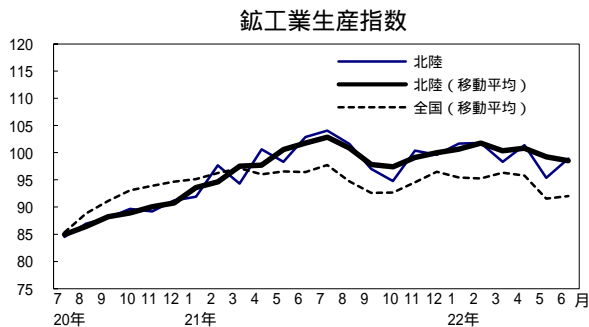
前回からの主要変更点

| | 前回(令和4年6月) | 今回(令和4年9月) | |
|-------|-------------------|---------------------------|--|
| 景況判断 | 緩やかに持ち直している | 一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している | |
| 鉱工業生産 | 緩やかに持ち直している | 持ち直しに足踏みが見られる | |
| 個人消費 | このところ持ち直しの動きが見られる | 緩やかに持ち直している | |
| 雇用情勢 | 緩やかに持ち直している | 持ち直している | |

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みが見られる。

4 - 6月期の鉱工業生産は、生産用機械や化学が減少したこと等により、前期比2.0%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | | | |
|-----------|--------------|-------------|-------------|-----|------|-----|
| | | 1 - 3 月期 | 4 - 6 月期 | 4月 | 5月 | 6月 |
| 電子部品・デバイス | 15.3 | 10.4 | 2.9 | 3.6 | 4.4 | 2.9 |
| 化学 | 14.0 | 3.7 | 2.8 | 0.7 | 1.8 | 7.4 |
| 生産用機械 | 11.8 | 0.4 | 13.4 | 8.5 | 18.6 | 5.4 |
| 金属製品 | 8.1 | 5.1 | 0.6 | 1.0 | 1.9 | 6.8 |
| 繊維 | 6.9 | 1.1 | 1.0 | 2.7 | 2.4 | 5.8 |
| 鉱工業 | 100.0 | 2.3 | 2.0 | 3.2 | 5.9 | 3.7 |

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4 - 6月期、6月は速報値。

2. 個人消費の動向

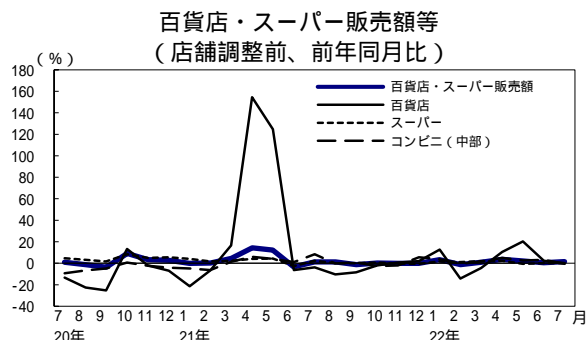
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4 - 6月期は前期比1.8%増となった。月別にみると、4月は前月比0.5%増、5月は同2.3%増、6月は同2.5%減となった。

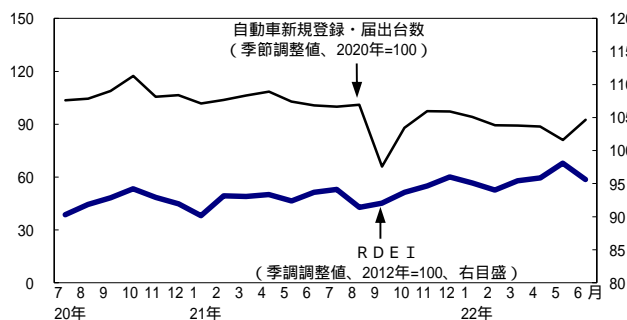
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4 - 6月期は前年同期比1.9%増となった。月別にみると、4月は前年同月比3.5%増、5月は同2.2%増、6月は同0.3%増となった。



| | 2022年4-6月 | 2022年4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|--------------|-----------|---------|------|------|-----|
| RDEI (消費*1) | 1.8 | 0.5 | 2.3 | 2.5 | |
| 百貨店・スーパー(*2) | 1.9 | 3.5 | 2.2 | 0.3 | 1.5 |
| 百貨店(*2) | 10.6 | 10.4 | 20.3 | 2.4 | |
| スーパー(*2) | 0.5 | 2.2 | 0.6 | 0.1 | |
| コンビニ(*2) | 3.6 | 4.8 | 2.7 | 3.3 | 0.5 |
| 乗用車(*3) | 15.5 | 19.9 | 20.6 | 6.6 | 9.6 |
| (季節調整値)(*3) | 3.9 | 0.6 | 8.6 | 14.0 | 0.2 |

RDEI (消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

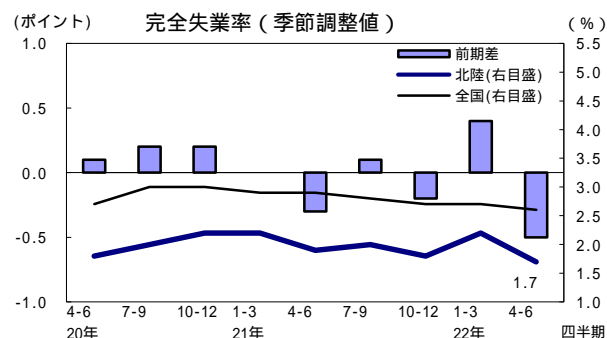
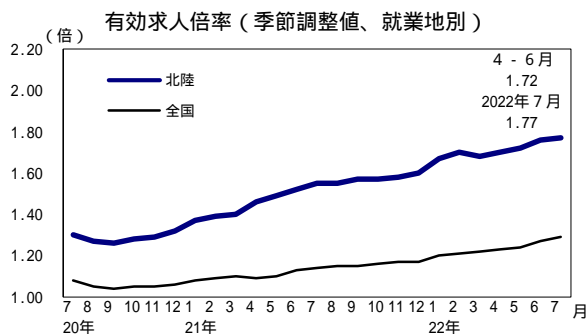
コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。
2022年7月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)

3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年8月調査）景気判断理由の概要

7. 北陸

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

| 分野 | 判断 | 判断の理由 |
|-----|------------|---|
| 現状 | 家計動向関連 | ▲ ・新型コロナウイルス感染症や、水害等の自然災害が頻発し消費マインドが落ちている（衣料品専門店）。 |
| | | □ ・売上は前年同月比で 163%だが、新型コロナウイルス感染症発生前との比較では 69%であり、回復したとはいえ状況が続いている（観光型旅館）。 |
| | | × ・豪雨などにより客足が遠のき、夏物家電も売上不振となっている（家電量販店）。 |
| | 企業動向関連 | □ ・新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、半導体不足やウクライナ情勢の長期化に伴う供給制限、物流費や原材料費などの高騰の影響が大きく、引き続き厳しい状況が続いている（プラスチック製品製造業）。 |
| | | ○ ・建築業は少し厳しくなってきたが、土木工事業や設備工事等を含めて建設関係は需要が安定しており、問題は材料の調達だけである。製造業は困難だった材料の調達が回復してきたようである。経営者は潜在的な受注は多いという手応えを持っており、製造業や工事業では、景気は間違いなく上昇傾向にあると考える（税理士）。 |
| | | ▲ ・受注量は堅調に推移しているが、資材が高騰する一方で販売価格を十分に上げることができず、利益率を悪化させている（一般機械器具製造業）。 |
| | — | — |
| | 雇用関連 | □ ・新型コロナウイルス感染症第7波で新規感染者数の増加が続き、求人の動きが鈍化している（民間職業紹介機関）。 |
| | | ○ ・新型コロナウイルス感染症と、ウクライナ侵攻の影響について言及する派遣先企業が少なくなっている。また、物流関係の企業を中心に求人依頼が増加している（人材派遣会社）。 |
| | その他の特徴コメント | □：新型コロナウイルスの新規感染者数が1000人を超える日が続いているが、客はこの状況に慣れてしまったのか、来客数は落ち込んでいない（美容室）。 ▲：新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増加しているため、非常に厳しい月となっている。付近の店舗も閉店時間が以前より早くなっており、当店の常連客に電話で案内をしても、身辺で新型コロナウイルスへの感染者が出ているため外出を自粛しているという返事が多く、大変悪い状態である（スナック）。 |
| 先行き | 家計動向関連 | □ ・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており、外出を自粛する傾向は変わらないため来客数の大幅な増加は見込めないが、富裕層の旺盛な購買意欲に支えられていくという流れは変わらない（百貨店）。 |
| | | ▲ ・今後も一般食料品の値上げがあり、生活のなかで節約志向が一層強まると見込んでいる（スーパー）。 |
| | 企業動向関連 | □ ・様々なコストアップを受け、今年の春に続きこの秋も製品価格の値上げを実施する予定だが、それによって販売量は若干減少するとみている（食料品製造業）。 |
| | | ○ ・大手企業を中心に底堅い受注があるため、やや良くなるとみている（精密機械器具製造業）。 |
| | 雇用関連 | □ ・求人数の状況が変わる要素や気配が見受けられない（学校 [大学]）。 |
| | その他の特徴コメント | ○：新型コロナウイルス感染症の状況次第だが、今の状況が景気の底に近いとみているため、3か月後には回復すると考える。県外からの秋の団体予約も、前年や前々年と比べるとかなり回復している（高級レストラン）。 □：築15～25年ほどの住宅に関するリフォーム需要は底堅いものがある。物価の上昇や世界情勢が変化しない限り、今の状況は変わらないと考える（住宅販売会社）。 |

